

## 平成26年度 学内研究助成金 研究報告書

研究種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input type="checkbox"/> 21世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input checked="" type="checkbox"/> 21世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	<b>International JUEMUN Press: The Promotion of Multicultural Cooperative Learning at Kinki University</b>	
研究者所属・氏名	研究代表者：文芸学部英語コミュニケーション学科 准教授 Todd Thorpe 共同研究者：文芸学部英語コミュニケーション学科 准教授 Andrew Atkins 文芸学部英語コミュニケーション学科 准教授 春木 茂宏	

### 1. 研究目的・内容

本研究では、JUEMUN Journalism というプロジェクトに基づく革新的で国際的な教育プログラムを紹介した。この研究の目的は、近畿大学学生の英語による異文化コミュニケーション能力を向上させること、外国人との共同作業による多文化環境においてデジタルメディアを用いた成果を作り上げることである。

### 2. 研究経過及び成果

本研究は7つのプロセスで計画実行された。JUEMUN Journalism はJUEMUN（日本大学英語模擬国連）の年次大会の様子をジャーナリストと役として、英語で取材し、記事か、ビデオかポッドキャストの形式に作り、全世界に向けて発信することが役割となる。そのような目的を目指す多文化環境での学習機会であるが、本研究と関連する特筆すべき点は、近畿大学生を含む日本人学生と外国人大学生がペアを組み、大会前の3か月間のインターネットを通して行う準備と大会3日間での取材および記事やプログラムの作成である。大会期間も含めて3か月間で、国際問題に関する複数の国の事情や立場のリサーチを行い、どのような取材を行えばよいのかをペアが議論し合い準備する。また、大会当日では、インタビューにおいてどのような質問が効果的かなどを英語で話し合い、取材活動を英語で行っていく。さらに、教員アドバイザーの指導も合わせて、英語で、記事やビデオおよびポッドキャストのプログラム作成も英語で行っていく。

本研究グループでは、以上の多文化環境における英語による異文化コミュニケーション能力を向上させるため、次のような教育的サポートを行った。まず、新聞記事、ビデオ報道、ポッドキャスト報道に関係する専門家を招聘し、学生たちにジャーナリストの姿勢や取るべき行動などのレクチャーを行ってもらった。取材における理念的かつ実際的なアドバイスをもらい、インタビューというコミュニケーション活動の質を向上させる結果に結びついた。次に、デジタル機器やコンピュータソフトを駆使して、記事やビデオおよびポッドキャスト報道番組をどのように作成すれば、視聴者に対してメッセージが伝わるのかをサポートしてくれる専門家を招聘し、大会期間中に実際的なアドバイスをしてもらった。その成果は、次のホームページ (<http://juemun.weebly.com/juemun-news>) にあるので、参照してもらいたい。

さらに研究グループが行ったサポートには、JUEMUN Journalism を実りのある学習機会とするために、事前準備から大会当日で行う成果物の作成までを詳細に示したガイドブックを作成した。これにより、学習機会の妨げとなる不必要な障害を取り除くことができたと考える。

以上のサポート体制を踏まえ、大会前3か月の準備期間と大会の3日間を経験した学生たちにアンケート調査を行い、JUEMUNを通してどのような能力向上や成長が見られたかを確認した。その調査から次のようなことを研究成果として述べることができる。

(1) 準備期間を通して行われたインターネットを通して行った取材計画では、時間的に空間的に縛られないという非共起性 (asynchronous) という特性がうまく活かされた。これにより、日本にいる近畿大学生が外国の大学生と計画の策定ができることが示された。

(2) このような非共起性を活かしたインターネット上でのフォーラム、すなわち、Online Asynchronous Forum (OAF) は、計画や話し合いに関する内容面にも教育的な貢献が大きいと判断できた。それは、その場で意見を出しそれを英語で表現するという時間的制約がないために、英語のレベルがそれほど高くなくても、時間を取って深く考えられる限り正確な英語で表現できる環境にあることが重要であり、深い考えを正確に表現するという外国語学習には必要なプロセスを提供することができるのである。

(3) 大会当日では、日本人学生と外国人学生の多文化、多言語での共同作業が、英語力向上だけでなく、国際理解、意見調整や目的達成のためのコミュニケーション能力の向上が観察できた。

ただし、問題点もあった。特に今準備期間の OAF では参加学生の自主性に任せていたため、OAF を活用できなかったものを少なからずいた。次年度以降では、この課題を解決し、上記の教育効果を楽しむ学生を増やすべく、教員アドバイザーの積極的で定期的な指導が必要になってこよう。(この報告書を提出する時点におきましては、すでに、2015 年度の年次大会が開かれ、準備期間での教員アドバイザーによる指導が行われたため、準備期間中にも、記事やビデオやポッドキャストという成果物が学生たちの努力により提出され、上記の教育効果の恩恵を受けた学生が増えたことは付け加えておきます。)

### 3. 本研究と関連した今後の研究計画

JUEMUN Journalism は現在進展中の教育プログラムであり、より効果的なものとするために、さらに研究が必要である。特に、近畿大学生を含めた日本人学生が英語による多文化環境でリーダーシップを取るようにできる教育方法を考える必要がある。さらに、2016 年度より発足する国際学部では、英語以外の外国語もあるため、それらの言語を取り入れた更なる多言語教育プログラムへ発展させる必要がある。これらを取り入れる国際教育プログラムの計画と実施に向けた研究が必要であり、成功した暁には近畿大学全学レベルでの国際的共同プログラムが発足し、日本人学生や留学生が参加する多文化、多言語教育プログラムが完成するはずである。

### 4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
Hawaii International Conference on Education 発表タイトル Innovative Multicultural Collaborative Learning Experiences: Students' Perceptions	ワークショップ(口頭発表)	2015年1月6日
Hawaii International Conference on Education 発表タイトル Improving Online Forums for Multicultural Collaboration and Communication	ポスター発表(口頭)	2015年1月6日
Hawaii International Conference on Education Conference Proceedings 発表タイトル Improving Online Forums for Pre-Conference Multicultural Collaboration and Communication	発表予稿集	2015年1月6日